

# かもまる通信



## 【図書館歳時記】「物忘れをしないように」

江戸の昔には、さまざまな指南所があったらしい。そのなかの一つに物忘れをしない方法や技術を教えてくれる指南所があったらしい。『御伽噺』(安永二(1773)年刊)に、次のような笑い話がある。

ある人、記憶の弟子入りして、悉く伝授を受け、「又、明日、参りましょ」と、門口へ出かかり、「コレ、御家来衆、わしはどちらから入りましたかの」。

ある人が記憶術を教えてくれる指南所に入門し、奥義の全てを習得したという。ところが、指南所から帰ろうとした時、「あれ？ 私はどちらの門から入ったんだっけ？」と、自分が来た道、つまり、家への帰り道を忘れてしまったという。これでは、もう一度、修行のやり直しですね。

いわき総合図書館長 夏井芳徳

## おすすめの本紹介

「情報は1冊のノートにまとめなさい」

奥野 宣之 || 著

ナナ・コーポレート・コミュニケーション



この本は、どこにでも売っている100円のノートで、日記帳、行動記録、本の感想、家計簿といった「書きもの」や「貼りもの」をすべて管理できる万能のノートを作る方法と、実際に情報を活用するための管理整理術を紹介したものです。どうしても煩雑になりがちな様々な情報を、分類・整理するだけでなく、1冊のノートに、「一元化」して管理するための、誰でも、簡単に、使えるた

くさんのアイデアが紹介されており、なるほど！と早速マネをしたくなる一冊です。

「万里の長城は月から見えるの？」

武田 雅哉 || 著 講談社



答えは、見えないそうです。本書の内容の中心は、万里の長城が月から見えるかどうかではありません。なぜ、事実ではない話が世界規模で信じられていったのか。本書は、それについて、北海道大学教授の著者が様々な言語、様々な媒体の資料に基づいて、やさしい文章で読みやすく検証しています。注釈と参考文献が39ページもあり、著者の努力と執念が垣間見られます。様々な情報が簡単に入手できる世の中だからこそ、一度立ち止まって、本当にそうなの？と考えることも必要なことではないか、と感じさせてくれる一冊です。

「に・ほん・もの」

中田 英寿 || 監修 KADOKAWA



サッカー引退後、世界中を旅して、日本に再注目し、47都道府県のあらゆる「人」「コト」「モノ」を巡る旅をした中田。本書は、土地と暮らしに密着したものづくりや食文化を経験し、人とのつながりを学

んだ中田が、日本のみならず世界中の人に知ってもらいたい、日本のほんものの作り手たちを紹介したものです。県内では、裏磐梯の「HOTELLI aalto」が「おもてなし」の宿として、紹介されています。『にほん』の『ほんもの』、日本文化の素晴らしさを感じていただきたい一冊です。

「夢金」

寺門 孝之 || 絵 立川 談春 || 文

ばば けんいち || 編 あかね書房



この本は、本格的古典落語の「夢金」を絵本にしたものです。古典落語の至宝と評される立川談春の噺を“口演”に近いたちで、実力派画家の寺門孝之が白と黒を基調に描いています。江戸にしんと雪のふる夜。船宿を訪ねた男と女。男は「妹を連れて、芝居見物に来たが、雪のため船を頼みたい」と言った。金に目がない船頭は小遣い目当てに、船を出したものの、怪しいお客の正体とは…？ 声に出して読んでみたくなる、大人も楽しめる一冊です。

## 貸出 TOP10

1	危険なビーナス	東野圭吾    著	講談社
2	コンビニ人間	村田沙耶香    著	文藝春秋
3	かがみの孤城	辻村深月    著	ポプラ社
4	沈黙のパレード	東野圭吾    著	文藝春秋
5	祈りの幕が下りる時	東野圭吾    著	講談社
6	蜜蜂と遠雷	恩田陸    著	幻冬舎
7	あやかし草紙	宮部みゆき    著	KADOKAWA
8	人魚の眠る家	東野圭吾    著	幻冬舎
9	マスカレード・ホテル	東野圭吾    著	集英社
10	魔力の胎動	東野圭吾    著	KADOKAWA

## 予約 TOP10

1	沈黙のパレード	東野圭吾    著	文藝春秋
2	大家さんと僕	矢部太郎    著	新潮社
3	昨日がなければ明日もない	宮部みゆき    著	文藝春秋
4	フーガはユーガ	伊坂幸太郎    著	実業之日本社
5	かみさまは小学5年生	すみれ    著	サンマーク出版
6	かがみの孤城	辻村深月    著	ポプラ社
7	すぐ死ぬんだから	内館牧子    著	講談社
8	一切なりゆき	樹木希林    著	文藝春秋
9	未来	湊かなえ    著	双葉社
10	ある男	平野啓一郎    著	文藝春秋

## 知っていますか？便利な図書館機能

### 【「リサイクルコーナー」について】

市立図書館には、ご不要になった本（図書限定）の交換の場として、「リサイクルコーナー」があります。捨てるにはもったいない本は、お近くの市立図書館の当コーナーに、一人1回30冊まで随時、並べていただけます。ただし、教科書、参考書、辞典類、雑誌、個人・団体・商品等のPR的なもの、汚れ（書き込み・マーカー等を含）や破損のひどいもの、青少年の健全育成の障害となるものはご遠慮ください。また、当コーナーで読みたい本を見つけた場合は、お持ち帰りいただけますので、ご利用ください。



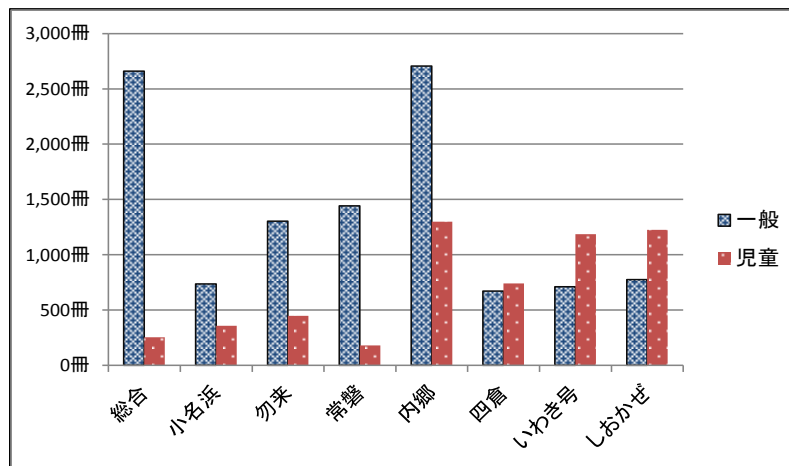
## シリーズ 数字で見るいわきの図書館

### 【平成29年度リサイクル図書】

一般書 11,003冊  
**16,693冊** 児童書 5,690冊

市立図書館で除籍した図書の中で、状態の良いものは、廃棄処分せずに、リサイクル図書として提供しています。

この中には、図書館での利用頻度が少なくなった小説や読み物、古くなった趣味娯楽の本や料理などの実用書も多く含まれており、関心のある方々の手に渡った後も、引き続き活用されています。



## 図書館豆知識

### ゆっくり、いろいろな本を選びたい時の味方！「ブックカート」

いわき総合図書館の4階・5階入り口左手に、資料を運ぶためのブックカートがあるのをご存じですか？ ゆっくり、いろいろな資料を選びたいけれど、いわき総合図書館の館内は広く、資料の重さが気になる…、そんな時にご利用ください。

館内限定での利用となりますが、大切な資料を安全に運ぶことができます。

お子様は保護者の方と一緒に、ご利用ください。

